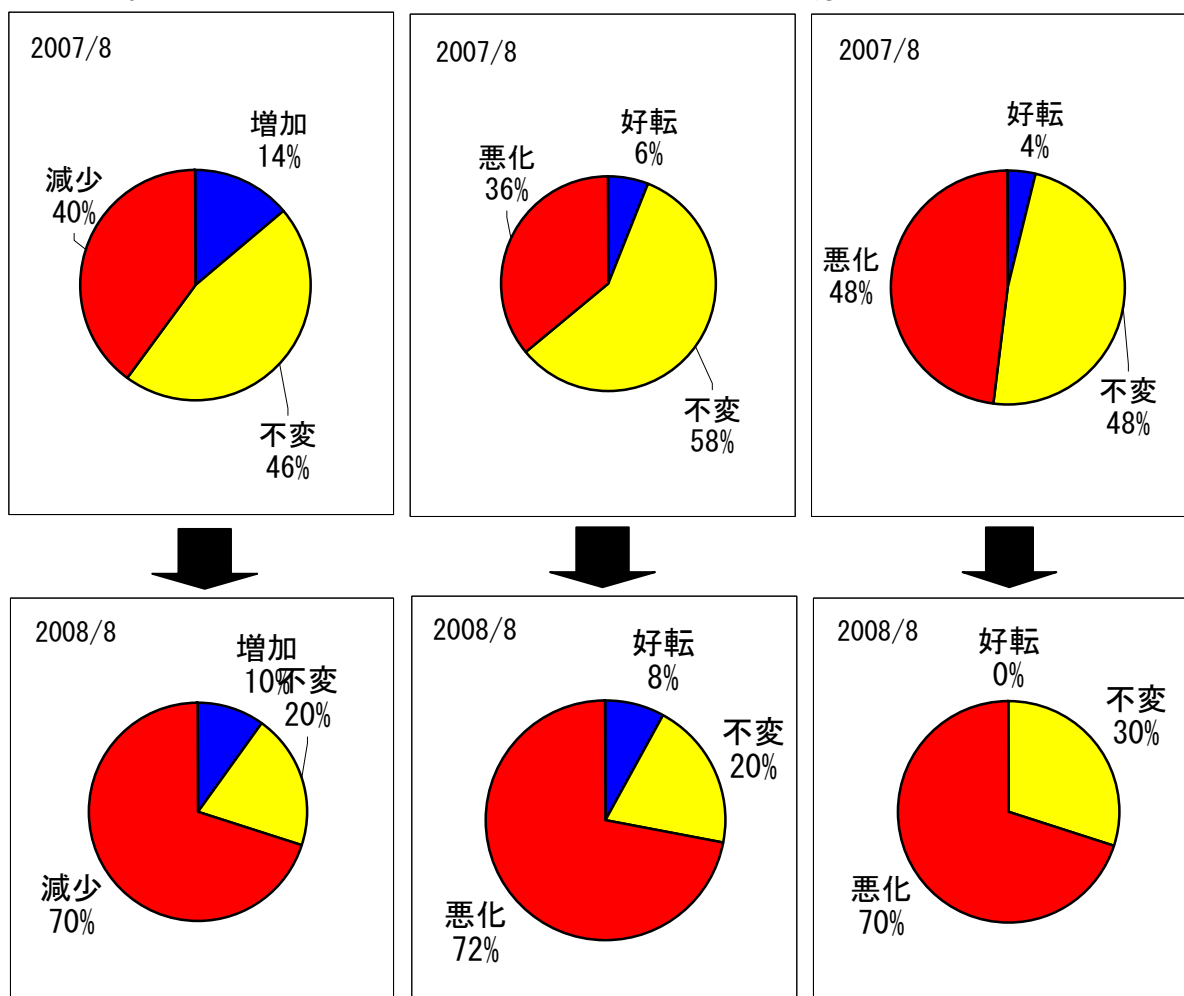


データから見た業界の動き (平成20年8月分)

売上高 (前年同月比)

収益状況 (前年同月比)

景況感 (前年同月比)



■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

区 分	製造業			非製造業			合 計		
	07/8	08/7	08/8	07/8	08/7	08/8	07/8	08/7	08/8
対前年,前月,当月									
売上高	-40	-40	-80	-17	-30	-47	-26	-34	-60
収益状況	-35	-60	-60	-27	-57	-67	-30	-58	-64
景況感	-45	-65	-70	-43	-70	-70	-44	-68	-70

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100)=D.I値

■ 概 況

本県の8月の景況は、全業種のD I値で、売上高は-60（前年同月比-34）、収益状況は-64（前年同月比-34）、景況感は-70（前年同月比-26）と全体でD I値のマイナス傾向は依然として続いている。

業種別では、製造業の売上高のD I値は-80（前年同月比-40）、収益状況は-60（前年同月比-25）、景況感は一70（前年同月比-25）であった。

非製造業のD I値においては、売上高は-47（前年同月比-30）、収益状況は-67（前年同月比-40）、景況感は一70（前年同月比-27）となった。

対前年同月比のD I値ではあるが、製造業、非製造業ともに各項目におけるポイントが大幅に下がっていることが目につく。対前月比では、特に売上のD I値で大きくポイントを下げている。

これは、前月(7月)の調査で、オリンピックや季節的な要因などによるものと、一部業界の原材料等のコスト上昇によってもたらされた売上増により、一時的に売上D I値が上昇した結果となったため、今月のD I値の推移は7月以前の水準に戻った状況と判断される。

県内の景況感は、依然として底から脱しきれず、現状では好転するための明るい材料は見当たらない厳しい状況が続いている。

■ トピックス

今回は、上部団体である全国中小企業団体中央会からの依頼により「組合員の資金繰りを巡る動向、金融機関の問題点、地域金融の実情」について調査を行った。これは、政府に対して要望を行っている中小企業の資金繰り対策に関連し、さらに金融機関の融資態度の変化、金融面の情勢把握を行うことが目的である。それぞれの業界からのコメントは次のとおりである。

「原料高から収支が悪化し、資金繰りも逼迫してきているが、先行き不透明で返済にも不安があるため、なるべく借り増をしないでしのいでいる。」、「条件変更により、金利の上昇を要求される場合が多いようだ。」、「金融庁の金融緩和措置が変更されない限り、相変わらず一般論として貸し渋り、貸しはがしの状態に有ることは変わらない。当分中小企業の倒産は続くと予測する。」、「保証協会の査定が一段と厳しいと複数の会員から情報があるが、金融機関の判断が不明である。やはり金融機関の責任範囲が広がった事に起因かとも判断する。」、「少なくとも当社では新規の融資を申し込める状況になく、自転車操業そのもの。」、「都銀・地銀ともに担保の見直しの動きが加速している印象。その中で借入以上の担保を要求する動きもあると聞いている。」、「金融機関が中小企業に対して資金を貸し渋る傾向になっては困る。」、「借入が難しいのが現状。施設が老朽化しているの現状で、借入ができないとますます悪くなっていく。」、「金融機関の貸し渋りに建設業界は四苦八苦している。国としての早めの救済策を望む。建設業者が事業収益があがらない以上、新規の運転資金融資は難しくなる一方である。」

こうした生の声からは、現在の景況を反映して、資金繰りの悪化に苦しむ中小企業の実態と金融機関との距離が垣間見え、中小企業への融資条件の引き上げや担保条件の変更など、益々厳しくなる金融機関の対応に不安と不満が感じとれる。

こうした状況を改善するためには、抜本的な政策推進が急務と言える。

■ 業界の声

（製造業）

○天候不順もあってか売上は前年同月比99%と自社製品、OEMとも前年並みを確保したが、やや期待はずれの感あり。原材料高騰分を価格転嫁。価格据え置きで容量を減らして実質値上げ（食品：洋菓子製造業）

○景況の悪化が著しい。ガソリン・食料品の高騰は消費者の不買を助長している。嗜好品であるワインは景気により売上が左右される。（ワイン酒造業）

○物価の上昇や景気の先行き不安から店頭での販売が落ち込んでいる。大変厳しい状況が続いており、この傾向は今後も続くと思われる。（繊維製品製造業）

○原油価格の下落により9月の重油価格は5円/㍓程度下がる模様。いちだんの下落を期待したいがもみ合い圏か。パルプは9月入荷分から広葉樹パルプが80円/kg値上がりする。10月からを目処に販売価格引き上げの交渉を行っている。（和紙製造業）

○一部民間物件が動き、出荷を期待したが、思ったより伸びなかった。公共物件の入札も出てきており、動きも出てくると思うが、受注数量も伸びず、出荷の増加は厳しい。（窯業土石業）

○受注する仕事量が昨年の半分とか1/3という話をあちらこちらで耳にします。かなり厳しい状況です。（貴金属製造業）

（非製造業）

○業界全体として8月も売上の減少は続いている。ただし、秋物の立ち上がりが早まり、9月に多少期待が持てるかもしれない。（繊維製品卸）

○高温小雨で入荷量は減少したが、消費が振るわず価格は低価格のまま推移。（青果物卸）

○前年と比較すると、盆休みの配列が長期間になり前半は好調だったが、8月最終週の落ち込みが激しく全体としては、昨年並。しかし、山梨県の豚価が頭数の激減により異常な高騰となり、利益は減少業務用卸においては価格の高騰から仕入れを控える等の影響が出ている。（食肉卸）

○仕入の値上げ攻勢は9月以降も続く見込みのため、年末まで苦戦は続くと思われる。高齢の組合員は廃業も真剣に考えており、決断する時期は間近である。（水産物卸）

○8月上旬からの雷被害が県内数力所に集中、その影響で夏期休暇を取れない会員が多く、昨年比出張修理が倍増した。その影響が現在も出ており、メーカーに部品注文が集中し、供給までに2週間程度要している。雷被害は販売にも好影響をもたらし、特に夏物中心にその他の家電品にも買い換えの影響が出ている。8月の市況が年内続くことを期待したい。（電気機器販売）

○原油高と物価高により地方の景気は強いダメージを受け当業界にもその影響が色濃く出ている。回復の見込みは薄く、引き続き厳しい情勢が続くと予想。特に原油高のため、燃料費は当初予算より4~5百万の負担増になる見込みのホテルもある。また小規模のホテルだが、設備投資をして燃料を重油から安定している都市ガスに切り替えた施設もある。（ホテル・旅館業）

○組合自体は委託であるため受注は変動が無い。しかし、燃料高騰による影響が経費UPに繋がっている。一般廃棄物業界は取引先の業況悪化により値下げと燃料高騰による影響大である。（廃棄物収集運搬業）

○山梨県の主要産品である青果物の出荷量が対前年比で20%減少した。国内景気が下降する中で中国からの受注キャンセルが多くなっている。（運送業）